

# 学校の授業等で活用できる「親学習」研修

平成 28 年 8 月 5 日 (金曜日)

大阪府の親学習教材「『親』をまなぶ・『親』をつたえる」を使用したワークやその活用方法を学ぶことで、学校の授業における「親と自分の関係」、「親となることの意味」や、教職員や保護者を対象とした学びの機会としての「親学習」実施を支援するため、教職員を対象に学校の授業等で活用できる「親学習」研修を実施しました。

1. 日時／場所 平成 28 年 8 月 5 日 (金曜日) /大阪府教育センター
2. 参加者 43 人 (学校教職員、行政担当者)
3. 内 容

## (1) 大阪府より「親学習について」

地域教育振興課より、「親学習」の内容や目的、必要性等についてお話をいただきました。

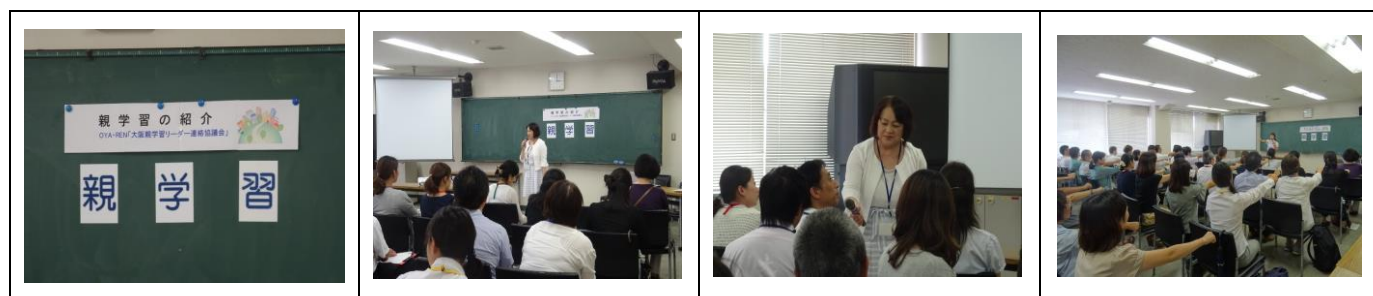
## (2) 実践報告

OYA・REN (大阪親学習リーダー連絡協議会) 親学習リーダーより、小・中・高等学校での親学習や保護者を対象とした親学習をご紹介いただきました。



児童・生徒を対象とした親学習では、大阪府の親学習教材「接する」より、卵に名前を付けたたり顔を書いたり、隣の人に預けたりと、卵を赤ちゃんとして扱う「卵のワーク」の実践報告をしていただきました。小・中・高等学校それぞれでの様子をご紹介いただき、正解や不正解ということではなく、子育てについてその大変さや喜び等を考える場づくりを設定することが大切だということをお伝えされました。また、学校で親学習を行う際の注意点や校種による特徴や授業の流れなど、実際に学校の授業で活用できるように具体的なお話をいただきました。

保護者を対象とした親学習は、交野市の家庭教育学級での連続講座の実践報告をしていただきました。アイスブレイキングや見守り保育等、保護者がリラックスして講座に参加できるような工夫、新聞や雑誌のコラム紹介等、各回にテーマが設けられており、子育ての不安や悩みを共有したり軽減できるような講座の工夫、講座の様子についてご紹介いただきました。



### (3) ワークショップ



実践報告に引き続き、OYA・REN より 7 名の親学習リーダーをファシリテーター（ワークの進行役）として、大阪府の親学習教材「はなれる」を使用した「親学習」を体験していただきました。

ペアになって「自由な時間に何をしたいか」をテーマにお話をしたり、手を使った体操（「もしもしカメよ～」の歌に合わせて）をして、リラックスしてワークをはじめました。ワークは、親学習での4つの約束（参加・守秘・尊重・時間）について確認をしてから、1グループ6～7人のグループに分かれて行いました。

「はなれる」は、子どもの忘れ物を届けてほしいか先生から子どもに聞いてほしいという保護者について、懇談会で話題になるというエピソードの親学習教材です。「自分ならどうする？」「どんなものなら届ける？」など保護者の立場に立って意見交換をしたり、親との関係について子ども時代のことを振り返ったりと体験談を話し、時には子育ての先輩からアドバイスもあったり、どのグループも話が尽きませんでした。ワーク後は、グループごとに感想を発表し、楽しく学ぶことができるワークとなりました

最後に、茨木市の高校での親学習の様子や学校での親学習リーダーの活用方法についてお話して、研修会を終えました。

#### 4. 参加者の感想（抜粋）

- ・小学生の子どもたちにとって、家族の大切さ、意味を考えるいい機会になると思いました。
- ・子ども達への関わり方は、学校、保護者、地域が一緒に悩みながら考えていくことがとても大切だと改めて感じました。みんなで共有することで、いろんなアイデアがでてくるので、抱え込んでストレスを感じることも少なくなるだろうと思いました。
- ・ファシリテーターさんのおかげで、自信をもって発言することができました。
- ・「きいてみないとわからない」たしかにそうだと思います。保護者の方との関わり、話をする機会を大切にしていきたいと思いました。
- ・親学習を通して、地域や保護者とお互いに思いを伝えることができると思いました。
- ・親学習にこういう決まった答えがないというのがいいと思いました。考えるプロセスやグループ討論などで家庭教育を考える時間が必要だと思います。
- ・グループワークで、さまざまな立場の人が同じ立場になって議論できたので、たいへん有意義なものでした。
- ・今すぐ使えそうなお話ばかりでとても役に立ちました。
- ・保護者同士のつながりももてるように、PTA 研修や保護者懇談会で活用できたらと思います。
- ・子どものうちから親学習を受けることで、命の大切さや親の気持ちについて考える機会となり、自身が親になったときの参考にもなると思いました。